

楠原向市場城(別名無)(指定無)(津市芸濃町楠原字向市場)

築城年：応仁期(1467～)

築城者：山田重孝

形式平山城

遺構：四方に土塁、南東部に虎口

規模：東西120m×南北70m

城主：山田重孝 — 瀬古氏

標高：67m 比高：14m

歴史：童子谷城と共に山田氏の城であったとされている。一時、瀬古氏が治めていたので、楠原の南東部を「瀬古」と呼んでいる。

経緯：山田氏の分家、後に瀬古氏を名乗る。(勢陽五鈴遺響)

書籍：勢陽五鈴遺響 三重の中世城館

現地：畑から刀・槍が出土した。

感想：守り堅固な城には見えない。居館風である。近辺で大きな戦は無かったのだろうか。同じように童子谷城にも言える。

「山城遺産」による

【感想】 芸濃町楠原宿東部の中ノ川対岸の微高地に築かれており、主郭は茶畑となっている。南側を除く三方に土塁が残り、東側に虎口らしい開口部がある。

北西約600mに楠原童子谷場城がある。

【案内】 県道10号線旧道の楠原宿入口に案内板があり、城名が記載されている。県道10号線の中ノ川の橋南詰より南岸の道路を西に行くと、城跡に着く。

【歴史】 戦国時代の城主として、山田重孝の名がある。楠原童子谷城の分家であった。

「古城盛衰記」による



東側遠景



虎口



西側土塁



東側土塁(内側)

